

# スプリング サンデー

2/28(日)



東大島図書館のおはなし会や工作教室、フリースタイルフットボールのライブパフォーマンスを体感しませんか。大人から子どもまで楽しめる内容です。詳細はHP、チラシ等でお知らせします。皆様のご来館をお待ちしております。



# 2/27(土) /28(日)



## 東大島文化センター 成果発表会

東大島文化センターで活動しているグループや主催講座の受講生が日頃の成果を発表します。入場無料・要事前申込みとなります。詳細はHP、チラシ等でお知らせします。お楽しみに！！



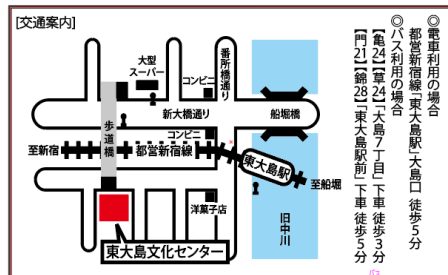
公益財団法人  
江東区文化コミュニティ財団



江東区東大島文化センター  
TEL. 03-3681-6331  
FAX. 03-3636-5825

〒136-0072 江東区大島 8-33-9 (地図参照)  
休館日: 第1・3月曜日、ただし国民の休日にあたる場合を除く  
ホームページ: <https://www.kcf.or.jp/higashiojima>

年末年始休館(12/29~1/3) 定期休館1/4



発行:2020年12月

HIGASHI  
OJIMA  
CULTURE  
CENTER  
NEWS

2020  
冬号

# 東大島文化センター ニュース

- Index
- 1 クリスマス展示&迎春展示
  - 2 東大島亭/第6研修室から奏でるMyコンサートSP
  - 3 ぶらり小名木川
  - 4 スプリングサンデー/東大島文化センター成果発表会

# 東大島文化センター クリスマス展示 & 迎春展

年末は  
28日(月)まで開館

12月10日(木) ▶ 26日(土)

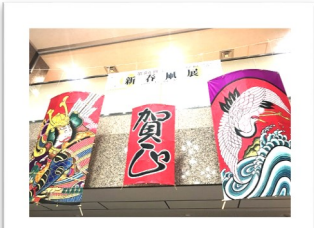
12月の東大島文化センター一階ロビーでは大きなツリーが2つ!! 紅と白のサンタクロースや子どもたちの人形がお出迎えいたします。



1月5日(火) ▶ 17日(日)

新年は5日(火)より開館

明けて2021年の新年は迫力のある和風や凛とした生け花、元気が出る絵手紙の展示が順々にスタートします。年末・年始も東大島文化センターへお越しください。



## 第十三回 東大島亭のご案内 林家けい木・立川志の太郎 二人会

林家  
けい木



東大島亭で初笑い☆  
若手実力派の落語をお楽しみください。

日時: **1月16日(土)** 開演14:00(開場13:00)

会場: 東大島文化センター 2階 第1和室

料金: 一般 1,500円 / 友の会 1,300円

(当日各300円増)

全席自由・椅子席 / 6歳以上入場可



立川  
志の太郎

## 第6研修室から奏でるMyコンサートスペシャル AHO 2021特別演奏会 (入場無料☆要・事前申込み)

冒険的な楽曲の演奏を目的に掲げ活動する「AHO」が、早く人々が世界を往来できる日常に戻ることを願い、世界各国の音楽をホルンアンサンブルでお届けします。今回の「6研コンサート」は会場をレクホールに変更しスペシャルバージョンとしておくりします。



日時: **2月7日(日)** 開演15:00(開場14:30)

会場: 東大島文化センター 4階 レクホール

料金: 入場無料(全席自由)90名・0歳児よりOK!

**但し、チケットの事前予約が必要となります。**

出演: Adventurous Hornists Organization (AHO)

曲目: チャイコフスキー/交響曲第4番より

世界の映画音楽より

申込: 東大島文化センター (電話及び窓口にて)

安心して来場いただくために



江東区文化コミュニティ財団では、公演実施に際し、江東区の方針に基づいて財団ガイドラインを作成し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に最大限努めます。

①検温 来館前に検温をお願いします。体調不良等の場合、来場をご遠慮ください。②マスク着用 マスクを着用してご来場ください。③手洗い、アルコール消毒 来場の前後に行ってくださいようご協力ください。④お客様同士の間隔確保 接触を防ぐため座席の間隔を空けています。⑤定期的な換気 空調設備による常時換気とともに、ドア・窓を定期的に開放して、換気をしています。⑥来場者名簿の扱い 感染発生等の場合、保健所等に提供することがあります。



小名木川リバーガイド倶楽部  
会員 関口 彰

## 「もうひとつの小名木川について」

ここでは小名木川について、治水と環境の面から、語ってみようと思う。

昨年10月に大きな台風(台風19号)が首都圏を直撃し、豪雨と突風による甚大な被害があったことを覚えているだろうか。当時、江東区内の多くのエリアに避難命令が出たことを記憶されている方も多いただろう。そのとき、豪雨で水位が増した荒川上流にある岩淵水門では、基準水位(東京湾干潮時水位)からの高さが4.0メートルを超え、水門下流で分岐する隅田川は氾濫危険水位を超えた。そこで、隅田川側に流れる側の水門を遮断し、荒川下流側に全ての水を流すことで、隅田川流域の氾濫を未然に防いだことがあった。そのとき荒川下流では水位が7.2メートルに達し、氾濫が危惧されていた。筆者はこの2つの川に連結する小名木川の水位上昇が心配で、建物の上階から小名木川の様子を眺めていた。しかし、小名木川の水位は普段と変わらなかった。筆者が住む地域は扇橋閘門より東側にあたる小名木川流域の地区で、いわゆる「ゼロメートル地帯」である。この地域の小名木川は、扇橋閘門などの水門で他の内部河川とともにせき止められ、自然潮位による水位変動のある荒川や隅田川の日常水位より常に1メートルほど低くなっている。強力な揚水機により水位調整されていたのである。

もうひとつ、小名木川が水質環境の面でも対策がなされていることはご存じだろうか。実は水門で遮断された河川の水は、完全にせき止められているのではなく、隅田川側から水を取り込んで、荒川側に排出され、淀まず緩やかに流れている。

しかも、揚水時、サイフォンの原理を利用し、魚などの生物を傷つけないよう配慮されている。その自然循環のおかげで、四季折々に様々な魚の群れが躍動する様子

を眺めたり、アオサギ、カワウなどの野鳥と至近距離で出会ったりすることができる。

この写真は筆者が小名木川遊歩道で顔なじみのアオサギを撮った一枚である。

このように小名木川は、目立たないところで、地域の安心と安らぎを与えてくれる親水空間として、私達の暮らしを支えてくれていると言えるのではないかと。



小名木川で出会うアオサギ

※サイフォンの原理・・・大気圧を利用し管を使って、液体を高い位置に持ち上げて移動させる仕組み